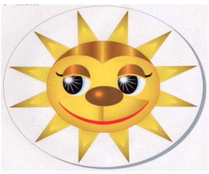
令和２年度　大仙市立横堀小学校 学校報　ＮＯ．８　　令和２年５月２８日



緑の風

テレビ取材に！！

学校教育目標「夢に向かって　心豊かに　たくましく生きる子ども」

～“自分で考え　みんなと創る”　楽しい　ふるさとの学校～

名物！「どろんこ遊び」と「田植え」　同時開催

延期していた、横堀小学校の伝統的な学習である「どろんこ遊び」と「田植え」を実施することができました。子どもたちは、朝からテンションマックス！でたくさんのかん高い歓声や奇声が響き渡っていました。

ソーシャルディスタンスをできるだけ保ちながらの、いつもの年とはひと味違う、ぎこちなさはありましたが、“どろ”の感触を足や手や顔？で存分に楽しむことができたようです。コロナ対応の中で、大人が最大限の配慮をしながら、できることをやっていくこと。新しい生活様式にベストはないので、人と人とが知恵を寄せ合って、共感することを大切にして、“よりベター”を目指していくことが大切だと考えています。

ずっと田んぼをお借りしている齊藤さんには、事前の「田起こし」や「代かき」などの作業もご協力いただきました。そして、人との交わりを自粛すべき時期にもかかわらず、いつもお世話になっている北寿会の皆様の応援もいただき、みんなが笑顔になる時間を過ごすことができました。

本校では、北小学校時代から脈々と続く、子どもたちの“夢”や“ふるさと”を意識した「米」をテーマとした学び。昨年は、地域と共に、未来につながる子どもの学びを創っていくことをめざして、総合的な学習を大幅にリニューアルしました。

計画はできましたが、その実践は人と関わる学びが多く、今年度は自粛を続けているところです。いずれ、保護者の皆様や「楽しい学校を創る会」の皆様方などのご意見をいただきながら、ふるさと横堀につながっていく学びを創造したいと願っています。

テレビの取材にも興味津々の子どもたち ⇨

学年紹介
スタートは　キラキラの「すたあ」学年　３年生！

初めての“習字”　“社会科”

３年生になると、生活科がなくなって、理科や社会科、総合的な学習の時間の勉強などがスタートします。そして、生まれて初めての体験となる子どもも多い“習字”の勉強も始まります。

この日は、習字セットを開けて、まだ一度も使われていない筆や硯などの使い方を丁寧に確かめ合っていました。担任の高橋英昭先生は、書写教育を研究しているプロ中のプロ！スタートの学習が専門の先生から受けられるって、本当に幸せなことですね。

近いうちに、初作品が掲示されることを楽しみにしています。早く、参観日の実施が可能になって、お家の皆さんにもいろんな勉強の様子をご覧いただきたいです。

社会科では、学校のまわりの「地図」づくり

学校の周りを歩いての勉強。２年生の生活科の「たんけん」から、３年生の社会科では「地図づくり」へと発展。旧ロータリー付近の田んぼの多さや、お店、郵便局などの見たことがあるものを地図の中に位置付けていきます。

家庭学習の日記にも、たくさんの新しい発見があったことが書かれていました。

家庭学習もパワーアップ中

３年生になってから、

○２ページ以上がんばる子どもがすご～く増えました
○チェックポイントがしっかりしてきました
○文字がきれいに書けるようになりました

教室が２階になっただけでなく、体も一回り大きくなって、授業にも家庭学習にも、たくさんの成長が見えています。
「すたあ」がキラキラ輝く５月です。

特別支援教育アドバイザーによる学校訪問

大仙市教育委員会の特別支援教育アドバイザーである佐藤厚子先生による学校訪問がありました。「あゆみ学級」の二人が仲よくがんばる姿や、全校の子どもたちが順調に学習を進める様子をご覧いただきました。

佐藤先生からは、次のようなご指導をいただきました。

○一人一人の子どもたちをよく見て、面談等も適切に行われ、丁寧に指導や支援していることがすばらしい。
○子どもたちの自己有用感を育むためにも、その子にあったプログラムによる授業を大切にしてほしい。

特別支援教育は、１０９名の全ての子どもに必要な教育であることを心に留めて、誠意と熱意をもって接していきます。